

修身說約

水戸藩編輯

九

牧野

T1A1

22

(KI13)

修身說約卷ノ九

木戸 麟 編集

第一

元弘三年村上彦四郎義光ハ其ノ子義隆ト共ニ  
護良親王ニ從ヒ吉野ノ城ニ在リケルガ東國ノ  
賊軍四方ヨリ攻メ圍ミテ城兵多クハ戰死シ外  
城既敵手ニ陷リ親王短兵ヲ以接戰數合ニシ  
テ退キテ左右ト酒ヲ酌ミテ慨歌セリ義光鎧上  
ニ矢ノ集ルコト蝟毛ノ如ク雄姿颯爽トシテ來  
リ跪キテ曰ハク賊焰熾盛ニシテ城丈ヲ可カラ

ズ、臣願ハクハ、大  
王ノ鎧装ヲ賜ハ  
リ、詭リテ大王ト  
爲リテ死セン大  
王聞ニ乗ジテ遁  
レ去レテ護良ノ  
曰ハク、死セバ則  
共ニ死セシ、何ゾ  
相棄ツルニ忍ビ  
ンヤト、義光聞カ



味方出

ズ起チ、自親一ノ鎧ヲ解ケリ親ト己ムトヲ  
得ズシテ、之ヲ許シ、涙ノ垂レテ去レリ、義光乃其  
ノ鎧ヲ被テ雉樓ニ登レバ義隆來リテ、偕ニ死セ  
ントス、義光、曰ハク、汝亟ニ去リテ王ニ從ヒ、其  
ノ後ヲ拒ク、徒ニ死スルヲ勿レト、義隆泣キテ訣  
レ去レリ、義光遣ニ親王、去ルニ遠キヲ見テ、大  
呼レテ敵軍ニ向ヒテ曰ハク、我ハ今トノ第三子  
護良ナリト、乃腹ヲ割キ、腸ヲ抽キ、壁ニ擲テ斃  
シケレニテ、賊四集シテ、其ノ首ヲ斬リテ去レリ、  
既ニ吉野執行ノ兵五百騎親王ヲ逢ニ遮レリ、義

隆單身留リ鬪ヒテ數人ヲ斬リ、其ノ身モ十餘創ヲ蒙リケルガ、親王ノ去ルコト既遠キコトヲ知リケレバ、一叢竹ノ中ニ走リ入リテ自殺セリ、親王終ニ免レテ、高野山ニ至ルコトヲ得タリ、義隆時ニ年十八ナリ。

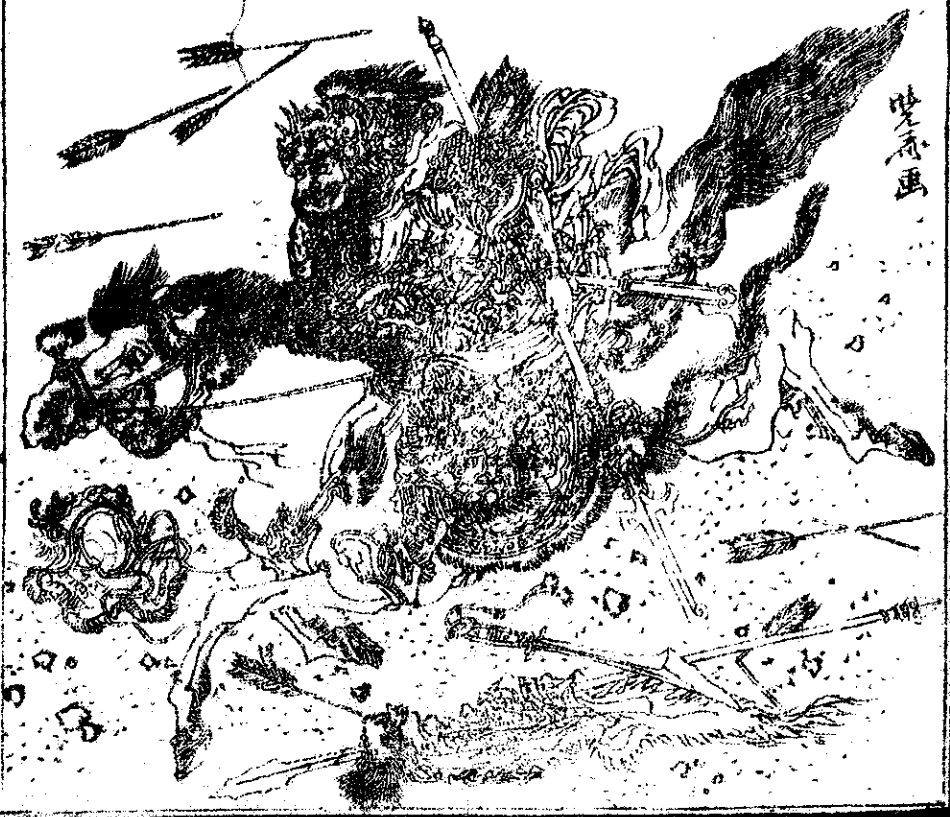
## 第二

蜀漢ノ趙雲字ハ子龍、常山真定ノ人ナリ、蜀帝劉備ニ事ヘテ、五虎將軍ノ一人タル、劉備、曹操ノ軍八十三萬ト、荊州ニ戦ヒ、利アラズレテ北ニ走リケルト、趙雲、劉備ノ家孥ヲ護シ、之ニ從ヘリ、

曹操勝リ、追フコト思急リ、蜀ノ軍當陽ノ長坂ニ合フ、人々敗レ、劉備僅ニ身ヲ以テ免レタリ、趙雲槍ノ振ヒテ、敵ニ當リ、血戦數合ニシテ、其ノ軍ヲ顧ル、己ガ護ル所ノ家孥皆其ノ行ク所ヲ知ラザリケレバ、嘆ヒテ曰ハク、我至重ノ囑託ニ背キテ、幼主阿斗ヲ失セリ、死ストモ之ヲ索メズバ、何ノ面目アリテ、再君ニ見エシヤト、殘兵二十餘騎ト俱ニ、曹操ノ八十三萬ノ軍中ニ突入シテ、偏シ諸方ヲ索ムルニ、敵軍其ノ鋒ニ當ルモノナク、遂大人甘氏ヲ認メ、之ヲ援ケテ遁レ

走ラシム、又、入リテ幼主ヲ索ムルニ、更ニ其ノ蹤  
 跡ヲ見ズ、後ノ顧ルニ、從兵皆死シタリ、趙雲單騎  
 馳セテ、樹下ノ過ヤミ、兒ノ泣ク聲アリ、近ヅキ  
 テ之ヲ視、夫人糜氏阿斗ヲ抱キテ斃レ卧セ  
 リ、趙雲天ヲ拜シテ、大ニ喜ビ、夫人ヲシテ、己ガ馬  
 ニ騎ラシメントスル、糜氏ノ尸ハク、妾既創ヲ  
 蒙リテ起ツコト能ハズ、將軍顧ハタヘ、此ノ兒ヲ  
 冀ケヨト、遂傍ノ井ニ投シテ死セリ、趙雲、己ムコ  
 トヲ得バ、甲ヲ脱シテ、兒ヲ懷ニレ、槍ヲ採リテ、馬  
 ニ跨ルニ、敵八面ヨリ競ヒ進ノリ、趙雲又之ヲ戰

亡、數十人ヲ斃シ  
 シガ、過テ敵ノ  
 陷阱ニ陥レリ、其  
 ノ時、曹操ノ將張  
 郃、槍ヲ倒ニシテ  
 刺サントシケル  
 ガ、趙雲馬ヲ躍ラ  
 レテ、穴ヲ出デ、曹  
 操ノ隊中ヲ馳ス  
 ルコト、宛無人ノ



參身兒内  
 卷七  
 四  
 羊馬系

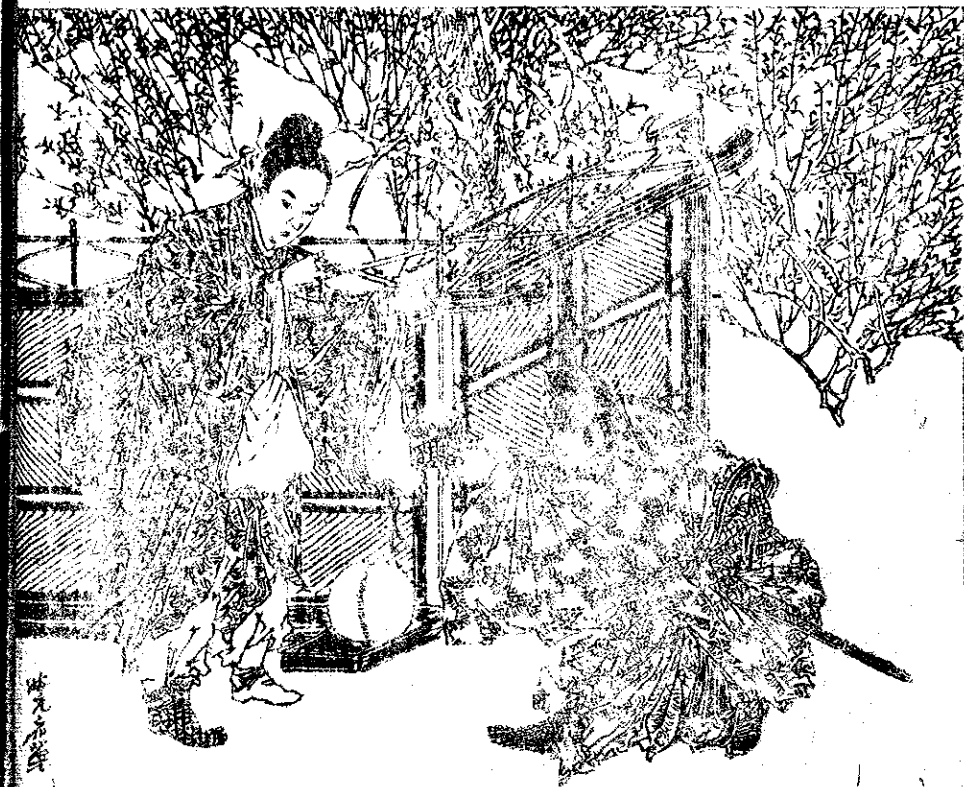
地ヲ行クガ如シ、曹操、山上ヨリ之ヲ望見シテ、其  
ノ名ヲ問ハシメケレバ、趙雲ノ曰ハク、我ハ常山  
ノ趙子龍ナリ、曹操其ノ勇ヲ嘉シ、矢ヲ發スル  
ヲ無ラシメタリ、趙雲遂曹操ノ圍ハヲ脱シ、劉備  
ニ會シテ、阿斗ヲ出ダセシニ、阿斗熟睡セリ、劉備  
大ニ怒リテ曰ハク、汝至愚ナリ、將軍ヲ勞シテ眠  
レルカト、是ヨリ趙雲寵遇益渥シ、常ニ客將軍  
以禮セラレタリト云フ、

### 第三

中臣鎌足ハ、藤原氏ノ始祖ナリ、皇極孝德天智ノ

三朝ニ事ヘテ勲功ナリ、皇極ノ朝ニ當リテ、大臣  
蘇我蝦夷其ノ子入鹿ト共ニ、權ヲ擅ニシ、皇族ヲ  
弑シ、子男ヲ王子ト稱シ、家門ヲ宮門ト唱ヘ、柵ヲ  
環ラシ、兵ヲ備ヘ、出入スルトキハ衛士數人ヲ從  
ヘリ、又一郎ヲ畝傍山ノ東ニ營シ、倉廩ヲ建テ、戎  
器ヲ貯ヘ、非望ヲ覬覦セリ、鎌足謂ヘラク、我之ヲ  
誅セババ、天地ノ間ニ立タズ、一時ニ詔アリテ、鎌  
足ヲ神祇伯ト爲セシガ、鎌足ハ病ト稱シ、朝セ  
ズ、皇弟輕モ亦脚疾ヲ患ヒテ朝セズ、君側ノ姦ヲ  
攘フニ意アリケレバ、深ク相結託シテ、密ニ計策

ヲ議セリ、又皇子  
中大兄ノ仁慈ニ  
シテ局度アルヲ  
見テ、俱ニ事ヲ舉  
ゲント欲スレド  
之ヲ告グルニ  
由ナカリシガ、一  
日皇子法興寺ニ  
遊ビ鞠ヲ樹下ニ  
蹴ルニ方リ、鎌足



モ亦來リ遊ベリ、會皇子ノ靴脱ケテ、鞠ト共ニ輾  
轉レテ、其ノ前ニ至リケレバ、鎌足ハ直ニ之ヲ拾  
ヒ取り、跪キテ皇子ニ奉レリ、皇子モ亦跪キテ之  
ヲ受ケタリ、是ヨリ始メテ、親近スルヲ得テ、與ニ  
謀テ、田ノクニガ、屢往來シテ、世人ニ怪マレンコ  
トヲ恐レ、乃車ヲ同クシテ、南淵先生ニ詣リテ、經  
ヲ受ケ、車中ニテ密ニ議リ、終ニ入鹿ヲ太極殿ニ  
誅戮シ、又其ノ宅ヲ圍ミテ、之ヲ屠リ、一朝ニシテ  
巨姦ヲ天誅ニ伏セシメタリ、後大職冠ニ拜シ、内  
大臣トナレリ、

#### 第四

英王「エドワード」第三世「カラ」井スヲ攻メシモ、居  
民城ニ據リ、固守シテ降ラザル。一年餘、其ノ間  
大ニ英兵ヲ失ヒレカバ、王、大ニ怒リ、糧竭キテ降  
ラントセシモ、之ヲ許サズシテ、悉城中ノ人ヲ戮  
シ、財物ヲ奪ハントセシガ、將校等其ノ慘酷ナル  
ヲ諫メテ、稍寛典ヲ議シケレバ、王ハ魁首ノ者六  
名、露頭跣足ニテ、頸ニ繩ヲ纏ヒ、衫ヲ著ケテ、城門  
ノ鑰ヲ持テ來ラバ、他ノ命ヲ赦サント決シタリ、  
此ノ令ノ城内ニ達スルヤ、居民皆愁歎啼哭セリ、

「ユーステースト」云ノ者アリ、苟府ノ難ヲ救フヲ  
得バ、我ノ血液ヲ流ストモ怨ミナシ、我英軍ニ行  
カント云ヒケレバ、皆其ノ愛國ノ義氣ニ感シテ、  
他ノ五人モ亦之ニ與レタリ、是ニ於キテ、六名齊  
ク王ノ命ノ如ク、醜態ヲ爲レテ、英軍ニ赴キケレ  
バ、王ハ直ニ之ヲ刎テヨト令レケルヲ、太子將校  
皆之ヲ止ムレモ、聽カズ、ヒリビア后已ノ功ヲ以  
彼ノ命ヲ購ハント乞フニ及ビテ、始メテ之ヲ赦  
シタリ、

#### 第五



武田信玄村上義清ヲ攻メシ氏、兩軍相接シ、矢丸  
雨ノ如ク下リケレバ、諸隊皆竹牌ヲ以、牆壁トナ  
シ之ヲ防グ、時ニ信玄、俄ニ陣ヲ分ケテ、兩隊ト  
爲サントシ、三井某、米田某ヲシテ、令テ別將、飯富  
板垣ノ二氏ニ傳ヘレム、二使命ヲ受ケテ出ヅ、米  
田ノ曰ハク、牌外ハ危シ、請フ牌内ヲ行カント、三  
井ノ曰ハク、矢丸ヲ畏ル、ハ、勇者ニアラズ我ハ  
牌外ヲ行カント、出ヅレバ、即矢丸雨ノ如ク注ギ  
僅ニ百死ヲ免レヌ、飯富ノ軍ニ達セレガ面色恰  
灰ノ如ク、口嚙レテ言フコト能ハズ、米田、既令ヲ

二將ニ傳ヘ、笑ヒテ三井ニ牌外ヨリ歸ラント云  
ヒケレバ、三井ハ吾レ牌外ヲ來リレシ、既丸頭烈  
シ、豈再スベケンヤト答ヘケルヌ、米田ハ、向一子  
ト與ニ牌外ヲ行カザリシハ、君命ヲ達セザフニ  
コトヲ恐レテナリ、君命既達シヌレバ、今ハ畏ル  
、所ナレトテ、意氣從容トシテ、牌外ヨリ歸リケ  
レバ、三井ハ大ニ慚愧セリトゾ、

第六

イパシノシタス、一、ハル人ハ、ゼベス、ノ名將  
リ、劍ヲ以、敵ニ刺サン、殆死ナントセシトキ、之ヲ

拔カシメズ、シテ勝敗ノ決スルヲ待テリ、士卒ノ  
走り來リテ吾ガ軍勝テリト告グルニ及ビテ喜  
ビ色ニ形ハレ、今日ハ吾ガ命ノ盡ル日ニ非ズ  
テ、吾ガ始メテ生ルノ日ナリ、我身死レテ名立ツ  
宣榮トラスヤト言ハテ、其ノ劍ヲ拔カシメテ斃  
レシトゾ、

第七

景行天皇二十五年、熊襲叛キテ王化ニ服ヒズ、恣  
ニ小民ヲ殘殺シ、屢邊境ヲ侵掠セシカバ、天皇大  
ニ怒リ、皇子小碓ヲ將トシテ之ヲ討ミタマフ皇

子時ニ年一六熊襲ニヤリ謀者ヲ遣シテ賊ノ動  
靜及ビ形ヲ窺易ノ湖ハレム、謀者還リ報シテ  
曰ハク、熊襲川上梟帥ト云ノ者今夜親族ヲ集  
テ酒宴ノ張リ、諸門ノ守兵悉怠慢セリ、是ニ乘  
テ其ノ不意ヲ襲ハシ、直ニ殊功ヲ奏ス可ト、皇  
子乃頭髮ヲ解シ、少女ノ姿ニ變テ、寶劍ヲ懷  
ニテ、密ニ梟帥ノ宴席ニ侍ヒ、梟帥其ノ容姿ノ  
美麗ナルヲ愛シ、手ヲ執リテ、其ノ傍ニ坐セシ  
タリ、皇子其ノ醉卧スルヲ伺ヒ、劍ヲ出シテ其ノ  
胸ヲ刺シ、タマヘバ、梟帥大ニ叫ビテ、我ヲ刺ス者

ハ誰人ゾト云ヒケルニ、我ハ天皇ノ子小碓ナリ  
ト答ヘタマハハ、我國中ノ剛者トカラ角アルニ、  
永此ノ如キ勇力ニ遇ハズ、我賤陋ト雖願ハクハ、  
尊姓ニ日本武ト上ラント云ヘリ、皇子之ヲ聽ル  
ニ再刺レテ之ヲ誅シタマヘリ、

### 第八

フリスノ驍將バイヤールハ、剛正ヲ以顯レタ  
リ、英王ハシリ、第八世其ノ人トナリヲ好レ人  
ヲレテ、密ニ之ニ説カレメケルハ、英王ニ仕ヘバ  
高官ヲ授クハント、バイヤールハ對ハク、吾

ガ爲メニ英王ニ辭セヨ、我天ニ在リテハ神ヲ主  
トシ、地ニ在リテハ佛王ヲ主トス、我決レテ他ノ  
君ニ仕フルコト能ハズト、

### 第九

前漢ノ蘇武字ハ子卿杜陵ノ人ナリ、武帝ノ時中  
郎將タルヲ以、節ヲ持レテ匈奴ニ使ヒセリ、單于  
之ヲ降サント欲シ、武ヲ幽レテ大窖中ニ置キ、飲  
食セシメズ、會天雪ヲ雨ラシメテ、武固レシタ  
ラ雪ト糞トヲ齧シテ、之ヲ咽ミ、數日死セズ、匈奴  
以神ナリトシ、武ヲ北海上ニ徙レテ羝ヲ牧セシ

ノテ曰ハク、羝乳セバ乃國ニ歸ラレメント、武漢  
節ヲ杖ツキテ、羊ヲ牧シ、卧起操持セレカバ、節旄  
盡落チタリ、昭帝ノ時、漢使者ヲ遣ハレテ、武等ヲ  
求メテ、レバ、匈奴詭リテ、武既死セリト言ヘリ、使  
者ノ曰ハク、天子鴈ヲ上林ニ射ケルガ、其ノ足ニ  
帛書アリテ、武某ノ澤中ニ在ルコトヲ書シタリ  
ト、匈奴隠ス能ハズ、遂武ヲ還セリ、武、匈奴ニ留ル  
コト十九年、始メ強壯ヲ以出デ、還ルニ及ビテ、鬚  
髮盡白カリレト云フ、

第十

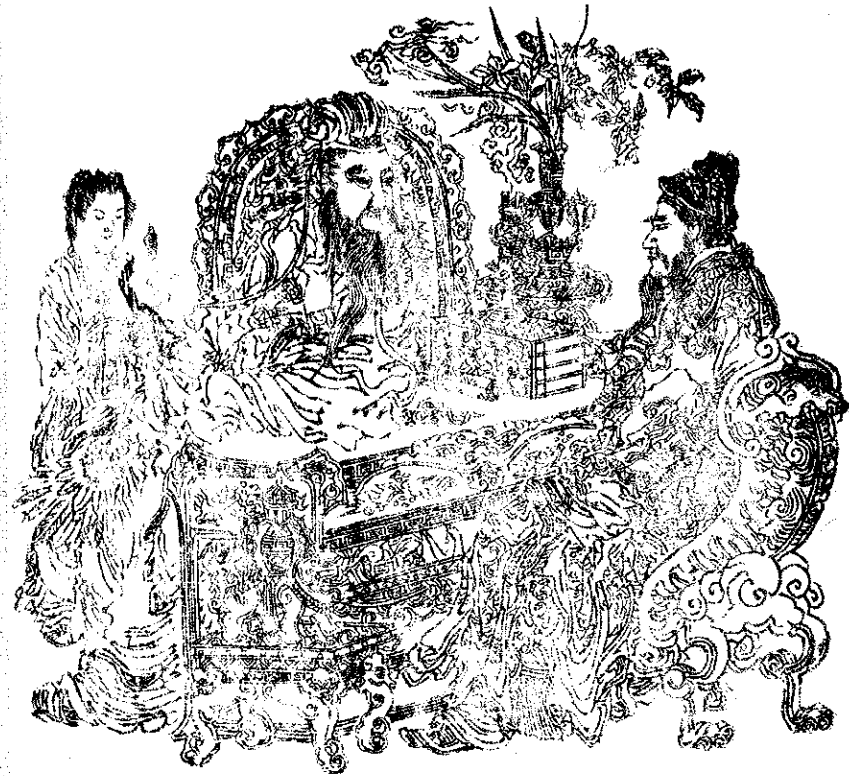
伊東九郎祐清ハ、父ヲ祐親ト云フ、平氏ノ家士ニ  
レテ、世々伊豆ニ住メリ、源賴朝平氏ノ爲ニ流サ  
レテ、其ノ國ニ在リケル時、祐親事ニヨリテ、之ヲ  
害ヤントセレニ、祐清私ニ其ノ謀ヲ告グテ避ケ  
レメタリ、後、賴朝兵ヲ舉ゲテ、鎌倉ニ據リ、坂東ノ  
將士悉屬スルニ及ビ、祐親ノ虜ニレテ至リレカ  
ラ、祐親恥ヂテ自殺セリ、賴朝祐清ヲ召シテ云ヒ  
ケルハ、汝ガ父ノ罪アルモ、我猶之ヲ宥ヤントセ  
リ、況汝ノ我ニ恩アルヲヤ、汝我ニ屬セヨト、祐清  
辭シテ、我ハ罪人ノ子ナレバ、死ハ固ヨリ其ノ分

ナリ、我嚮ニ志ヲ君ニ通ゼシハ、他日ノ報ヲ求ム  
ルニ非ズ、今又何ノ面目アリテ、君ニ事ヘンヤ、唯  
速ニ死ヲ賜フベシト云ヘドモ、賴朝之ヲ殺スニ  
思ハズ、就清又君若我ヲ殺サズバ、我必平氏ノ爲  
君ヲ射ント云ヘルヲ、賴朝ハ一人ノ去就、何ザ  
勝敗ノ數ニ與ラン、平氏ニ從フコト、汝ガマハナ  
リトテ、投ヲ遣リケレバ、祐清京ニ往キテ、平惟盛  
ニ從ヒ、源義仲ヲ越前國ニ拒ギテ、遂篠原ニ戰死  
セリ、

第十一

諸葛亮字ハ孔明、琅邪郡陽都縣ノ農夫ナリ、性穎  
達聰敏ニシテ、諸學ニ通ジ、殊ニ兵法ニ至リテハ  
天下獨歩ト稱セラレ、自其ノオノ管仲樂毅ニ比  
セシトイヘリ、時ニ天下騷亂、英雄割據シテ漢室  
無キガ如シ、涿郡ノ劉備之ヲ嘆キ、兵ヲ舉ゲテ、新  
野ニ屯シ、希世ノ輔翼ヲ得テ、動亂ヲ靜メント、隱  
士司馬徽ノ家ニ詣リ、當時ノ事務ヲ訪フ、司馬徽  
曰ハク、儒生俗士、豈時務ヲ識ランヤ、時務ヲ識ル  
ハ俊傑ニアリ、此ノ間ニ諸葛孔明ト云フ者アリ、  
將軍宜ク之ト謀ルベシト、劉備是ニ於キラ、諸葛

ノ廬ニ詣ルコト  
 三たびニシテ、始  
 メテ見ルコトヲ  
 得、漢室ヲ恢復シ、  
 姦臣ヲ誅除スル  
 策ヲ問ヒケレ  
 バ、孔明、其ノ義ヲ  
 感シ、出デ、劉備  
 ニ事ヘ、純德忠誠  
 ヲ以、之ヲ輔翼シ



惟と見ゆ

漢中ノ定メ、巴蜀ヲ取リ、魏ノ曹丕漢帝ヲ廢シ  
 テ位ヲ篡ノニ及ビテ、劉備ヲ勸メテ帝位ニ即カ  
 レタリ、劉備乃、孔明ヲ以丞相トナシ、内外ノ政  
 務悉之、倚賴セリ、劉備歿スルニ及ビ、其ノ子劉  
 禪ヲ助ケテ、曹魏ト戦フト雖、殊功未就ラズレテ、  
 遂ニ文帝ニ病歿セリ、時ニ年五十四、

第十二

ユロンビスト云ハル人ハ、西曆一千四百三十五  
 年イタリノビノロニ生レタリ、其ノ父ハ羊毛  
 ヲ剪リテ、世ヲ送ル人ナリケリ、コロンビス、天賦

聰明ニシテ、深ク地理、天文、並ビニ航海ノ學ヲ好ミ、十四歳ノ時、既水客ト爲リ、テ諸國ニ航シ、絶大ノ功業ヲ建テント欲スルノ念ヲ萌生セリ、西曆一千四百一十年、居ヲリスボンニ移セリ、時ニ年三十五、廣ク當世ノ碩儒博識ト交リ、腦力ヲ地圖ノ製作ニ費セリ、古キ學士ノ地形ハ圓ナリト言ハル説ト、西風強キトモ、木材ノ彫鑿セル者并ビニ未知ラザル人種ノ死骸、アソール海濱ニ漂著セシコト有リケルニヨリ、コロンビスハ未人ノ聞見セザルノ州アルコトヲ感覺シ、西方ヨリ印

度ニ至ル航路ヲ開キ、未教化ヲ彼ラボリ異域ニ歐州ノ學術ノ傳ヘンコトヲ思ヒ起シ、之ヲホルヲカガル王ジョーン第二ニ説キ、カハ此ノ王ハ其ノ性鄙吝ナレバ、之ヲコロンビスニ任セズレテ、竊ニ臣下ヲシテ、船ヲ裝ヒ、其ノ路ヲ索メシメタルガ、猛浪劇濤ノ爲ニ困メ、遮テレテ、徒ニ歸リ來レリ、コロンビスハ之ヨリ東西ニ奔走シ、其ノ事ヲ果サンコトヲ求ムレバ、之ノ信用スル者ニ久、空ク若干ノ星霜ヲ經タリ、西曆一千四百九十二年、スパニアニ到リテ、ヘルナンドニ説キケル

ハ、若新土ヲ見出セバ、其ノ地ノ總督ニ命ゼラルベク、且所得ノ利益十分一ヲ分チ賜ハルベク、又自此ノ舉ノ費用八分ノ一ヲ辨ズベキ旨ヲ述ベテ懇請シタレバ、時戰爭ノ後ニ際シテ、府庫充實ニザリケレバ、請フ所ノ三艘ノ船ト、三千、一ロ一、金ヲ得ルヲ能ハズシテ、其ノ望ニ復行ハルズ、快々レテ將他國ニ赴カントシ、ガ女王、イザベルヲ其ノ曉マザルノ志ト、卓見トニ感動シ、己ガ愛玩シテ佩バルト、其ノ寶玉ノ裝具ヲ悉賣却シ、俄ニ船艦ト、要用物品トヲ備ヘ、

懷ヲ遂メ、時節到來シ、同年秋、八月一日、ビクタリナト稱ホル二艘ノ船ト、サンタマリアト唱ホル巨艦ニ、ゴロンビスノ號旗ヲ翻シ、人員總バテ百二十餘人、アンタロシアノバロス港ヨリ、朝風ニ颯ヲ解キケルガ、此ノ行ハ昔ヨリ傳ヘモ聞カザル水旅ニシアレバ、ゴロンビスヲ除カ、外ハ心皆穩ナラズ、唯王命ヲ畏シテ從役セル輩ナレバ、港ヲ放レテ離別ノ祝聲モ聞エザルニ至ルトキ、既、汎ノ滂沱タルヲ覺エ、宛死地ニ入



ルガ如キ、想像ヲ浮バタリシガ「コロンビス」ノ洲  
 膽ハ、恰羅盤針ノ北斗ノ指スガ如ク、確乎タル心  
 念、撓ミナクゾ見エニケル、開帆ノ後、四十日ノ間  
 曲一、向ヒテ航シケルニ羅盤針、忽正直ニ北斗ヲ  
 指サシレバ、按針役ヲ始メトシテ、船中ノ者大ニ  
 驚愕シケルニ「コロンビス」懸念ニ其ノ理ヲ説  
 明シ、之ヲ鎮メケル、船中ノ人ハ天涯一片ノ暮  
 雲ヲ望ミテ、陸地カト疑ヒ、或ハ萍草ノ波ニ漂フ  
 ラ見、或ハ群鳥ノ飛鳴スルヲ見テ、志ニ達スル  
 ノ近キニアランカト左思右想其ノ心暢フレラ、

慨々タラシムル  
 ノミニシテ、水天  
 渺々、前途ノ目的  
 測ル可ラザレバ、  
 方寸忽亂レテ、第  
 十月十日ノ晚際  
 及ビ、水手等相  
 會シテ「コロンビ  
 ス」海中ニ投ゲ  
 入シ、舊路ヲ求メ



何處より

テ返ラントゾ計リケル、コロンビスノ剛膽ハ、依  
然トシテ變ゼス衆人ノ怒リヲ鎮メ志レヲ勵マ  
シ尚航路ヲ西ニ馳セケルニ其ノ明日ニ至リテ  
地古ナラザレバ産セザル魚類又ハ河藻或ハ未  
陳敗セザル菓實アル枝或ハ葦葉或ハ膠木等ノ  
波上ニ漂ヘルヲ引キ舉ゲケレバ人々稍カヲ得  
リ此ノ夜十時ノ頃コロンビスハ獨船樓ニ在  
リケルガ水烟ノ暗淡ナル中遙ニ火光ノ閃々タ  
ルヲ見タルガ如ク覺エケレバ二人ノ親友ヲ召  
シテ之ヲ語ルニ一人ハ之ヲ認メ得一人ハ火光

ハ或ハ高く或ハ低ク耀クヲ見出レケリ既シテ  
第二時ニ至リ前ニ進マシ、ビンタ船ヨリ號炮ヲ  
放チテ陸地ノ近キヲ報シケル、明クレバ第十月  
十二日ノ曙ト共ニ多年ノ宿望始メテ開キコロ  
ンビスノ船ハ樹林鬱蒼トシテ人ノ心目ヲ爽快  
ナラシムベキ景色ヲ帶アルトコロノ陸地ヲ距  
ルコト僅ニ二里半許ナル所ニ在リケルコロ  
ンビスハ美麗ナル衣服ヲ著ク手ニ「スバニア」ノ  
國旗ヲ持テ陸ニ上リ天神ヲ拜シ劍ヲ拔キテ永  
ク「スバニア」國ノ領地タランコトヲ祝シ之ヲ「サ

ンサルワードルト名付ケタリ則バハ群島ノ  
一ナリ土人等初メコロンビスノ船ヲ望ミ其ノ  
巨大ナルニ驚キ帆ノ張レルハ羽翼ニシテ炮ノ  
響クハ吼聲ナリトシ幼ヲ攜ヘ老ヲ扶ケ深林ノ  
裏ニ潛ミ隠レタリ既シテ上陸スル人々ハ美麗  
壯嚴ナルヲ矚ヒ見テ又眼ヲ驚カシシガ「スパー  
」人ハ惜マズレテ精好重價ノ物品ヲ與ヘケル  
ニゾ漸慣レ親レム至リクルコロンビスハ接  
近ノ島嶼ヲ歷視シ此ノ時ヨリ之ヲ「ウエストイ  
ンジ」トゾ稱ハケル是此ノ島嶼猶「アジ」ノ一

部落ナラムト思ヒ誤リケハナリ故ニ今ニ至  
ルマデ此ノ地ノ土人ヲ「ウエストインジアー」ニ  
トゾ稱シケル「コロンビス」ハ往復七ヶ月二十日  
ニシテ「バロス」港ニ歸リシカバ其ノ大功ヲ贊美  
セザル者莫カリケリ是ヨリ後「コロンビス」ハ尚  
三回ノ水旅ヲ爲シ王ニ乞ヒテ漸次ニ人民ヲ此  
ノ地ニ殖ス尚所々ヲ探索シテ西曆一千四百九  
十八年「アメリカ」ノ大地ヲ檢出シ許多ノ殖民地  
ヲ得テ田野ヲ辟キ金鑛ヲ掘リ大ニ「スパン」ヲ  
シテ富饒ナラシメケルニ國王讒者ノ舌頭ニ惑

ヒ其ノ位官ヲ褫シ、鐵鎖ヲ以之ヲ繫ギ、本國ニ呼  
ビ返レタリ、コロンビスノ罪ハ、跡ナキ空言ナレ  
バ之ヲ赦サレタレドモ、王、前約ニ違ヒ天之ヲ用  
ヒザリケレバ、コロンビスハ、其ニ忘恩背徳ヲ憤  
リ、常々其ノ鐵鎖ヲ室中ニ掛ケ、死ナバ共ニ之ヲ  
理メヨトゾ遺言レケル、西曆一千五百四年「コロ  
ンビス」齡六十九ヲ以死シタリ

修身說約卷ノ九終

明治十一年九月廿四日版權免許 同十二年十一月校訂  
同十四年三月廿四日再版御届 同十四年九月廿五日議受御届  
同十五年三月十五日三版御届

編纂人

木戸

麟

群馬縣御用掛

東京府士族

原 亮三郎

東京日本橋區本町三丁目七番地

出版人

